

## 令和5年度 第4回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和6年2月15日（木） 午後2時から4時

2 場 所 藤枝西高校 会議室

3 参加者

会 長	鈴木 尚夫	元公立中学校長
副会長	高橋 仁	静岡産業大学教授
委 員	中西 康人	西益津地区支部長
委 員	伊東 邦雄	「日知塾プロジェクト」コーディネータ
委 員	国松 良子	令和5年度PTA副会長

校長（竹村）、副校長（野澤）、教頭（秋月）、事務長（岩本）、  
教務主任（大村）、生徒指導主事（杉本）、進路指導主事（赤池）  
記録：総務・図書課員（望月）

4 内 容

(1) 校長挨拶

コミュニティ・スクール事業については、令和6年度が藤枝市の蹴球都市100周年ということもあり、ズンバ事業に替わって藤枝市主体でウォーキングサッカーを実施する予定である。小野委員及びインストラクターのマリアン氏の尽力で本校の魅力の一つとなっていたズンバ事業であったが、ウォーキングサッカーについても地域の方々に愛され生徒が気軽に参加できる事業となるよう、藤枝市と協力して円滑に準備、運営を進めていきたい。

来週からは本校の入学願書の受付が始まるが、志榛地区の中学生の人数は激減している現状の中で、入学定員を超える中学生に受検していただけることを期待したい。

(2) 校内見学…授業の見学等

(3) 学校自己評価等の説明<副校長>

アの学力向上の取り組みに関する教職員の自己評価では、C及びD評価が散見されるが、その理由の一つとして相互授業参観を授業改善に役立てることがあまりできなかった、ということが挙げられる。また、4年間継続してきたスタディサプリの活用についても、多くの職員から見直しの必要性が指摘されており、来年度に向けて改善を図っていきたい。一方、クロムブックの活用とそれにとまなう教員の指導力の向上については一定の手応えを感じている職員が多く、この流れを継続していきたい。

イの進路指導については、キャリアパスポート及びポートフォリオを活用した進路指導体制が確立されている現状もあり、全般的に高評価であった。

ウの活気ある学校作りについては、生徒主体による学校行事及び部活動等の取り組みが定着しつつあり、生徒の自律を図ることができているという評価であった。

エの豊かな感性・異文化理解の涵養等については、朝読書やグローバルプログラムなどの特徴ある取り組みによって、生徒の感性やグローバル人材の育成が着実に進められているという評価であり、来年度も工夫しながら取り組んでいきたい。

オのコミュニティ・スクール事業については、地域や保護者との連携を意識しながら生徒の参画を促してきたが、来年度についても常に見直しを加えながら継続して取り組んでいきたい。

カの安全・安心な教育環境づくりについては、交通安全指導や校内の安全・美化のための清掃指導等、当たり前のことに地道に取り組んでいきたい。

ここ数年、教職員の数が減少している現状の中で、目標の達成について難しさを感じてきているところではあるが、組織力をもって乗り越えていきたい。

#### (4) 補足説明

##### ア 総務・図書課

今年度のコミュニティ・スクールの活動は無事にすべて終了した。昨日PTA本部役員会・評議委員会を実施し、保護者アンケートの集計結果を報告した。役員員の選出については地区ごとに選出していたものをクラスごとに変更、委員会についてはコミュニティ・スクール委員会を廃止し、全保護者対象に任意で参加できるように変更する。3月1日に予定している卒業式は、来賓をお呼びし、2年生も参列したコロナ禍前の形で実施する。

##### イ 教務・情報課

コロナ・インフルエンザが流行したが、学級閉鎖になるクラスはなかった。学習時間調査では試験前は目標値をクリアできているが、アンケートを取る時期によっては目標値に達しない時期もある。1年生のクロムブックは6月に導入され、来年度は全学年揃う。総合的な探究の時間やLHRで活用が進んでいる。教員も研修を積みながら適切に使えるよう指導していく。観点別評価については校内研修を実施した成果が出ている。

##### ウ 生徒・保健課

交通事故については大きな事故はなかったが、今年度は15件発生した。ヘルメット着用の声掛けを生徒・保護者にしているが、本校生徒の着用は数名にとどまっている。コロナとインフルエンザが流行したが、他校のように学級閉鎖になることはなく、日頃の換気等の指導が徹底できていた。学校行事について、コロナ禍前のように盛大に行うことができた。コロナ禍の前後で教員の異動があり、運営の引継ぎができておらず不手際が生じることもあったが、今年度の反省を来年度に生かしていきたい。校則について、毎年生徒による校則の見直しを行っており、昨年度の3学期から靴下の色や男子生徒の髪型などに関する規定を緩和している。今年度も、風紀委員会を中心に生徒の意見を聞き、校則の見直しを進めていく。

##### エ 進路課

LHRを中心に進路学習を行っている。3年生の2学期については、すべて進路関係の指導を行ってきた。2年生から志望理由書を作成させ、それをもとに指導している。総合力を養う支援として、小論文や面接の指導については全職員で個別

指導を行っている。現在国公立大学では10名が合格している。学校全体では、半分以上が年内で決定している。すでに合格した生徒と、国公立大の2次試験まで受験する生徒との学校内の指導のバランスが課題であり、最後まで国公立大2次試験に向けて支援していく。スタディサプリについては活用方法に課題があり、継続するかどうか検討している。

## (5) 協議・意見交換

### ア 学校関係者評価について

(ア) 「教科横断的に「夢中」になるAL授業の実践と総合的な学力の向上を図る。」について【総合評価B】

<中西委員> 学校の取り組みについて詳細を知っているわけではなく効果や結果が出ているのか分からないため、自身の立場で評価するのが難しい。手法に対する学校の努力に対する評価とする。

<高橋委員> AかBか迷った。クロムブックやアクティブラーニングなど工夫して取り組んでいる様子が分かる。

<国松委員> 学校の自己評価を参考に評価した。スタディサプリの活用ができていように見受けられないため評価Dとした。

(イ) 「キャリア教育とキャリアパスポートによる自己理解の深化と進路実現を図る。」について【総合評価A】

<中西委員> キャリアとはどこまでのキャリアを指すのか。職業についてなのか人格形成を重視するのか。

<伊東委員> 入試が多様化している。夢や目標が見つかっていない生徒がいる一方で小さい頃から一つのことを突き詰めている生徒もいる。学習だけでなく広い意味での自己実現ができる活動についても視野に入れていくと良いのでは。

<田形委員> 入れる学校ではなく入りたい学校、なりたい職業といった高い目標を持たせ、生徒の意識を高くしていく必要がある。更に、その先の職業を見据えた指導をしてほしい。

(ウ) 「笑顔で挨拶ができる西高生、主体的に考え行動する活気ある学校づくりを推進する。」について【総合評価A】

<中西委員> 西高生が家の前を通るのをよく見る。自転車のマナーは悪くないが、挨拶という点では改善の余地がある。

(エ) 「豊かな感性、異文化理解の涵養と健康的な心身の保持・増進及び指導・支援の充実を図る。」について【総合評価A】

(オ) 「コミュニティ・スクール事業の推進及び生徒・保護者・地域・教職員との協働を図る。」について【総合評価B】

<中西委員> 自治会からの依頼として、社会福祉協議会が主催する「子ども食堂」「地元の歴史を学ぼう」という2つのイベントでボランティアを募集している。西高生も参加してほしい。

<伊東委員> コミュニティ・スクールについて、先生方があまり関わっていないように感じる。活動について知らない先生が多いように見受けられるため、校内

での広報活動も大事である。

<国松委員> 子どもが高校に入学し、中学と比べて学習スピードが早く、部活動も忙しいと感じていた。その学校生活を支えているのは先生であり、先生方の負担がとても大きいように感じている。勉強と部活動がきちんと行われた上でコミュニティ・スクールの活動を行ってほしい。テスト前の日程であっても夜8時まで活動していることもあり、改善の余地があるように感じる。コミュニティ・スクールの活動は良いことだが、勉強、部活が最優先であり、生徒・先生にとっても負担のないように進めていってほしい。

(カ) 「安全・安心な教育環境、心理的安定のある職場環境づくりを推進する。」  
について【総合評価B】

<中西委員> 防災関係について自治会としても反省点がある。高校生と一緒にどんな活動ができるか考えていきたい。防災訓練に参加する西高生が少ないように感じる。

<田形委員> スマートフォンや自転車について、未だに生徒たちに危険性が伝わっておらず、不安が残る。また、教員の仕事内容の見直しを図り、軽減していくべき。

イ 鈴木委員長から

静岡県の公立高校の募集定員は来年度、23学級920人減少する一方、私学は変更せず、学校の特色が今以上に求められる。まずは授業改善、良い授業を行うことが大切である。「挨拶をきちんとする」と回答した生徒が91%と年々増加しており、先生方が範を示した結果であることに敬意を表したい。教員数が減少し厳しい中ではあるが、温かな指導、学校一丸となった指導をしてほしい。

(6) 令和6年度基本方針の方向性について

<校長より> 西高への熱い思いや叱咤激励をいただき、大変ありがたく思う。頂いた御意見を来年度の学校運営に生かしていきたい。令和6年度基本方針については別紙参照。

<副校長より> 学校運営協議会の皆様には、引き続き御理解、御支援をお願いしたい。今後も御要望等あれば御意見を伺いたい。

<鈴木委員長> 先生方が範を示す姿勢が浸透してきている。学級担任、学年部、学校全体が一致団結して西高生を育てていくという気持ちを高めてほしい。学習時間については量と質の関係があるので一概には言えないが、授業改善に向けた取り組みをさらに踏み込んで行ってほしい。先生方の多忙さの解消も課題であるが、生徒の教育は先生方の尽力によるところが大きい。

<副校長より> 学校全体で一致団結して西高生を育てていく。授業改善への取り組みが充実するよう、来年度以降も努力を継続していく。